

# 真実の剣、 正直の刃

サー・アーサー・ Conan・ドイル  
SIR ARTHUR CONAN DOYLE



**ア**ーサー・イグナチウス・ Conan・ドイルは1859年5月22日にエディンバラに生まれた。母親のメアリ・フォーリーはアイルランド系で、その祖先をさかのぼるとノーサンバーランドの有力なパーシー家にたどり着き、そこからはブランタジネットの家系につながるという。メアリは幼いアーサーに対して、歴史物語や雄大な冒険譚、英雄的行為に満ちた話を語り聞かせ、これがのちに作家を職業とするにあたり、インスピレーションの種となった。一家は大家族であったため（アーサーは10人きょうだいの長男）母親にとって暮らしは厳しく、野心のない夫によるわずかな収入で家族を養うのは大変だった。チャールズ・アルタモント・ドイルというこの夫は公務員で、たまに芸術もたしなんだが、癩癩もちであるうえに憂鬱やアルコール依存の発作も起こしがちで、施設に収容されたあと、1893年に亡くなった。

## 教育と影響

気が滅入るような家庭環境からアーサーを逃れさせるべく、母親は金をかき集めると、彼をストーニーハースト・カレッジへとやった。ランカシャーにある厳格なイエズス会の全寮制学校である。アー

“  
神の最高の贈物である、  
本を愛する心を……  
アーサー・ Conan・ドイル  
『シャーロック・ホームズの読書談義』(1907年)

”

執筆中の Conan・ドイル。ビッグネル・ウッド(ハンプシャー州ニュー・フォレストに一家が所有していた田舎の静養所)の庭で1920年代後半に撮影されたもの。

サーはこの学校にいたときに宗教的信仰に疑問を抱くようになり、1875年に学校を卒業する頃には、キリスト教を完全に拒んでいた。代わりに彼は人生をかけて、信じられる別のものを探しはじめる——これが結局は心靈主義へと至るのだった。彼はこのストーニーハースト在学中に、モリアーティという同級生に出会っている——のちの執筆活動で、最大限に利用する名前だ。 Conan・ドイルは、見聞きした情報やアイデア、考え方に関する些細なことや細かい点をつねに気にかけて、将来使うことになると思いながら、心にとどめていった。

オーストリアのフェルトキルヒにあるイエズス会の学校でさらに1年学んだのち、 Conan・ドイルはエディンバラ大学で医学を学ぶ道を選び、芸術を好む家族を驚かせた。同大学で学んだこの期間(1876年から1881年まで)に、彼はのちの登場人物のモデルとなる二人の教授と



出会った。自伝『わが思い出と冒険』(1924年)ではラザフォード教授について、「顎と頬に広がるアッシリア風のひげに、並外れた声、厚い胸板と風変わりな態度」と記している。のちに手がけた有名なSF小説『失われた世界』(1912年)の主人公で、ジョージ・エドワード・チャレンジャー教授に用いることになる特徴だ。さらに重要となるのが、ジョゼフ・ベル博士との出会いである。患者の経歴や状況を推理するその手法たるや、ほとんど魔法のように思えた。このベル博士がシャーロック・ホームズのモデルとなり、インスピレーションを与えてくれたことは、ホームズ物語の最初の短編集である『シャーロック・ホームズの冒険』(1892年)が「わが懐かしの師ジョゼフ・ベル」に捧げられていることからわかるだろう。

1891年創刊の《ストランド》は、短編小説を掲載するイラスト入りの月刊誌だった。ホームズものはこの雑誌に掲載されて大いに人気を博した。

Conan・ドイルの父親は家に不在がちだったため、ベルのことを父親代わりに見ていたとも言われている。

学費の支払いと家族を養う母親を助けるため、 Conan・ドイルはアルバイトをいくつも行き、医療助手としてパーミンガムやシェフィールド、シュロップシャーに赴いた。さらには、北極圏に行く捕鯨船の船医を務めたこともあり、この体験はのちに執筆する幽霊話「北極星号の船長」(1890年)や〈ブラック・ピーター〉(184~185ページ)の題材となっている。

## 医師から作家へ

卒業後の1882年、 Conan・ドイルはデヴォン州プリマスでジョージ・ターナヴィン・パッド医師と組んで病院を始めた。パッドはエディンバラ大学の学友だったが、常軌を逸していて激しやすいところがあったため、この協力関係もじきに消滅してしまい、 Conan・ドイルは荷物をまとめてハンプシャー州サウスシーでみ